



ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会 2009年（平成21年）11月25日号 No. 1480

目次

■ロシア「地域開発」と「宇宙開発」の交点	I. メラメド 1
■トピックス	6
双日がロシア穀物協会と提携／6	
光学レンズのタムロンがモスクワに事務所／6	
製本機の太陽精機がウクライナ販社／6	
三菱重工、ウズベク発電所向け設備を受注／6	
■エトセトラ	7
ユーラシア研究所の講演会とシンポジウム／7	
『調査月報』2009年12月号のご案内／8	

講演録

ロシア「地域開発」と「宇宙開発」の交点

国際地域開発センター代表

I. メラメド

はじめに

当会では10月22日、ANAクラウンプラザ広島において、I. メラメド氏を講師として、「ロシア・ビジネスセミナー（広島）—金融経済危機の中のロシア経済：地域経済の視点から」と題する講演会を開催した。今回の速報では、その講演要旨を紹介する。

メラメド、イーゴリ・イリイチ（MELAMED, Igor Ilych）氏は、国家投資銀行、商業銀行の投資部長などを務めたのち、1995年から民間会社である国際地域開発センターの代表を務めている。同センターは主としてロシア政府の様々な国家プログラムの策定を行っている会社であり、政府プログラムである「2013年までの極東ザバイカル長期経済社会発展」目的プログラムの修正および「2025年までの極東および沿バイカル戦略」のコーディネーターとして中心的役割を果たしている。

本講演は、「金融経済危機の中のロシア経済：地域経済の視点から」と銘打ってはいたものの、講師側の強い希望もあり、ロシアの金融経済危機の話題よりも地域経済、とくにロシア極東および大規模開発、そのなかでも宇宙発射基地計画が主となった。ここでは、セミナーの趣旨を考慮し、日本滞在中のその他の機会でのメラメド氏の発言を追加した。な